

第2回田辺市立小中学校あり方検討委員会（学校視察）

日 時 平成20年12月15日（月）

視察校 三里中・本宮小・近野中・近野小・二川小・大塔中

参加者 委員 加治佐委員長、岡山副委員長、黒田委員、泉房委員、庄司委員、城委員、山本尚委員、松本委員、小坂委員、廣田委員、井戸委員、大倉委員、寒川委員、森本委員、中山委員、泉敏委員、山本紳委員

研究員 山本研究員、伊藤研究員（兵庫教育大学大学院）

事務局 教育次長、学校教育課長、龍神教育事務所、中辺路教育事務所、大塔教育事務所、本宮教育事務所、林指導主事、木下指導主事

A 中学校

A 委員：複数の小学校から集まって来るのか。

学校長：1校だけである。

B 委員：校長先生から色々な話を聞いたが、本当に少子化が進んでいると感じた。2年生の生徒数が6名になるなど、1校で野球チームも組めないようになっている。このように少子化が進む中、旧本宮町で中学校を1校にするなど、校長先生として、これからの本宮地域の学校のあり方について、どのような見通しを持っているか。

学校長：今は中学校の校長として一生懸命勤めている。誠に申し訳ないが、そこまでは考えていない。

B 委員：ここまで生徒数が減少してきている現状を考えると、統合するという状況になってきているのではないか。いつまでもこの状態でいくことはできないのではないか。

学校長：私は、今、与えられた仕事を一生懸命行っており、学校統合問題は私の職務の範疇を越えていると思っている。

B 委員：校長としては、これからの学校運営に関して先見の目を持って行わなければいけないのではないか。

教 頭：ふるさと学習を中心に地域と密着した取組を進めてきている。学力についても、「書く・まとめる・発言する」という力もついてきている。少ない人数の特徴である「きめ細やかな指導」ができていると感じている。この地域でなければできない教育を進めてきている。

B 小学校

C 委員：殆どの児童がバス通学をしているが、通学の時間帯の児童に対する安全面等は運転手にまかせっきりになっているのか。

学校長：基本的には運転手にまかせている。職員が月に2回スクールバスに乗り下校指導は行っている。また、各児童が乗り降りするバス停ごとに保護者が会議を持ち、子どもの送り迎えをどうするかを検討している。そして、検討した結果、地域によっては、子どもが1人になったときは親が送迎するなどの対策を行っている。それ以外にも地域の団体が安全パトロール等も行ってくれている。

D 委員：スクールバスでの通学時間帯については、殆ど、バスの運転手にまかせている

と聞いたが、バスの運転手から、「今日ほうさかった。」等の報告は受けているのか。

学校長 : その都度ということではないが、時々聞いている。

A 委員 : 統合されて、学校規模が大きくなり、複式が解消されメリットもあったと思うが、子どもの学力面ではどうなっているか。何か変化はあったか。

学校長 : 統合前とは比べてはいないが、勉強のできる子は互いに切磋琢磨し自分自身でどんどん努力する。しかし、5人に指導するのと10人に指導するのではやはり違うので、勉強の苦手な子にとっては、人数が多くなるとなるほど指導が行き届かない状況は出てきている。だからといって、個別に残して指導するのはスクールバスの出発時間の関係もあるので難しい状況である。

A 委員 : 隣に保育所があるが、保育所との連携や中学校との連携についてはどうか。

学校長 : 中学校との連携は、1つの中学校と1つの小学校なので行いやすい。5月頃に中学校に入学した生徒の様子を、小学校の先生方が参観している。また、反対に3月には、中学校の先生が小学校の授業を参観するなど交流を進めている。保育所とは、学年単位で交流を図っている。

C 中学校

C 委員 : 本年度は入学生が0人だったと聞いているが、地域の中で、今後、この学校をどうしていくか話題になっているのか。

学校長 : 過去のいきさつは分からないが、統合の話はかなり進んでいたと聞いている。でも、やはり地域で中学校を残したいという声が多くなり、学校が残ったと聞いている。「今も統合の話はないのか。」という話をされる方がいるが、中学生の保護者の世代は、小学校がここに残るならば統合してもかまわないという意見もある。例えば、野球などを行っている生徒であれば、「放課後あわてて、隣の中学校に移動するのであれば、朝から隣の中学校に行く方が良い。」という意見もある。でも、このような意見は総会や懇談などの正式な場で聞いたのではない。地域では生徒数が少なくなり、学校全体の活気がなくなり、そんな話が出てきているのだと思う。一方、小さな学校だからこそできる取組もたくさんある。地域の獅子舞や、昨年度取り組んだ通産省指定のキャリア教育などもその一例である。このキャリア教育の取組は地域を紹介するリーフレットを作成したものである。このように小規模校だから地域と密着して取り組めるという利点もあり、素晴らしい面もあると考えている。

E 委員 : 清掃なども行き届いていると思うが、毎日行われているのか。

学校長 : 毎日行っている。生徒がまじめに行うから校舎がきれいなのだと思う。しかし、生徒数の関係により、毎日できない教室もある。例えば、音楽室等は週に1回しか掃除していない。特別教室はあまり行わない。また、グラウンドも毎日掃除は行わない。毎日行うのは、教室及びローカである。平屋の校舎なので、校舎の維持管理という面ではそう難しい事はない。

A 委員 : 小学校の時からずっと同じクラス、生まれてからずっと同じ集団、しかも4人という大変少ない人数での集団での生活になっている。しかし、中学校を卒業して高校に進学すると大きい集団になるが、保護者は大きい集団に急になるこ

とについて不安を感じていないのか。

学校長 : そのことについて、私自身も心配している。10名以下の集団で、保育所からずっと十数年間同じ集団で生活することになる。まず、人間関係も決まってくる。クラス替えがないので、自分が変身することができない。そのような機会はない。4名の集団では、嫌われたら行く所はない。100名の集団ならば、友達関係を変えることができるが、少人数ではそれができない、人間関係が大変窮屈である。4名は仲がいいけれど、互いに仲良くしようと努力しているのかな。とも感じられる。

A 委員 : 大きな学校と交流は行っていないのか。

学校長 : 行っている。今年も旧市内の大規模校と交流した。昨年度は、別の大規模校と交流を行った。また、昨年度は大阪の天王寺に行き、都会体験も行った。

D小学校

A 委員 : 複式学級編制になった時期はいつか。

学校長 : 実は、複式授業を始めたのは、一昨年からである。それまでは、複式であったが、学校の運用を工夫し単式授業を行っていた。法律上、複式になったのは沿革を確認し、後で連絡させていただく。

A 委員 : 保護者や地域の方は、複式でもしようがないと考えているのか。それとも、複式は問題があると考えているのか。

学校長 : 複式の研究をしているし、複式授業もよい所があると考えている。また、本校においては子どもたちも力をつけてきている。保護者も喜んでくれている。

A 委員 : 学校の運用によって全て単式にすることは可能か。

学校長 : 可能である。

E小学校

C 委員 : 高原から通学している児童は何名いるのか。

学校長 : 4名いる。

A 委員 : 沿革史を確認すると、今までもいくつかの学校が統合し、一時期120名ほどの児童数の時もあった。しかし、徐々に児童数が減少し、現在、30名程度になっている。児童数が多い時期は単式学級だったと思うが、それがいつ頃から複式学級になったのか。

学校長 : はっきりしたことは分からないが、数年前から少し増えてきて今の児童数29名になっている。それまでは、完全複式であったのが、数年前から2学年が単式学級になっている。しかし、また再来年からは完全複式になる予定である。

A 委員 : D小学校の時と同じように、地域の方や保護者の方に複式学級がもう定着しているのか。複式学級にはメリットもあればデメリットもある。しかし、一般的には、できれば複式学級は避けた方がよいと考えられている。E小学校校区の地域の方や保護者の方は、複式学級は複式学級でしようがないという雰囲気になっているのか。それとも、やはり、複式学級には課題があると考えられているのか。校長先生の私見でもいいので伺いたい。

学校長 : 私自身は複式学級に携わったことが今までなかった。この学校がはじめて複式

学級に携わっている。正直な所、複式学級は忙しいと感じている。子どもが少ないから簡単というのではなく、子どもが少ないからよけいに授業を成立させるのにエネルギーがいると感じた。しかし、今、求められている「自ら進んで学習する子ども」を育成するには、大変効果的な方法であるとも感じている。複式授業には、直接、先生が指導する時と、間接的に先生が指導する時がある。間接指導の時に、「どれだけ児童が自分自身で学習出来るか。」「どれだけ児童に自分自身で学習する習慣をつけさせることができたか。」により、直接授業をするときに学習内容をどれだけ深めることができるかが決まると思う。そして、それを充実させることにより、児童に学力をつけることができると感じている。だから、「複式だから力をつけることが難しいとか。」「マイナスであるとか。」は、私としては考えられない。

E 委員：5年担当、6年担当という先生はいるのか。

学校長：5・6年が1つの学級となっている。

E 委員：5年担当と6年担当で教科の内容も変わってくるが、指導するのに抵抗はないのか。

学校長：抵抗は感じていない。

B 委員：5年生・6年生は一つの教室で行っている。その中で、どちらかの学年に重点を置いて指導することはあるのか。

学校長：特に重要な単元では工夫をして取り組んでいる。以前は理科や社会はA年度・B年度方式をとっていたがそれができなくなった。だから、教頭先生などが入り、2つのクラスに分けて行う単元もある。

F 委員：他校で複式授業を見たときは、みんなが黒板の方を向いて授業を受けていたが、今日、授業では背中合わせにして授業をしていた。このような授業形態については、何か目的があるのか。

学校長：本校では前からこの形態で授業を進めている。しかし、同じ方向を向いて行う授業もある。授業形態は学習する単元によって違う。全く違った内容のことを学習するときは、今日のように反対の方向を向いて授業をしている。

C 委員：複式の指導の方法について、議論することがあるのか。

学校長：板書の仕方など様々な議論をしている。

C 委員：普通、単式学級の場合、一つのことをみんなで行っているが、複式学級ではそれぞれが違うことを行っていることになる。そこで、集中力を欠くようなマイナス面は感じないか。

学校長：学習の仕方と考え方だと思う。マイナス面といえばマイナス面になるが、1時間の授業の組み立ての中で、ロスをなくしていくことができると感じている。先生がいないからといって勉強できていないというものでもない。ただ、先生の指示がきちんとできていないと、遊んでしまうことがあるので注意しなければいけない。その点については、教師がしっかり指導しなければいけない。

B 委員：複式学級を担当する先生は、それなりの研修等が必要になるのか。複式学級を担当した経験のない先生は大変だと思うのだが、そのような先生に対して、県の教育委員会が指導していくのか。それとも、市の教育委員会が行うのか。

学校長：複式の経験のない先生が今年も転勤してきた。転勤してきた先生は隣の学級の

先生に指導を受けたり、学校全体で会議を持ち研修を深めている。基本的にはその学校の中で研修を深めている。

F 中学校

D 委員：木守地区から1名が入学して来る予定になっているが、今後、この地区からの生徒数は増加するのか。

学校長：増加することはないと思う。

B 委員：クラブ活動への参加については、殆どの生徒が参加しているのか。

学校長：93名中13名は、クラブ活動をしていない。しかし、ジャズダンスを行ったり、空手をしたり、クラブ活動以外の社会体育の活動を行っている。また、その他にも、何もしていない生徒も数名いる。本校では現在、全員クラブ制をとっていない。何年も前に自由クラブ制に移行してきている。

B 委員：スクールバスが15時と17時になっているが、クラブ活動をする生徒は17時になるのか。

学校長：15時のバスに乗り遅れると17時、夏場であれば17時45分と言うことになる。だから、特に、クラブ活動を行わなくなった2学期以降の3年生が課題になる。3年生は15時のバスに乗れないと17時まで待たなければいけない。そのため、3年生のバスに乗り遅れた生徒は、自習室を設置し自習させる体制を取っている。

B 委員：クラブを顧問している先生の指導に関して、勤務時間を超えて行ってくれているようだが、その点についてはどのように考えているか。

学校長：職員の勤務時間は8時から16時45分となっている。しかし、夏場の生徒の最終下校時間は17時45分になっている。だから、1時間は明らかに勤務時間を超過している。そして、クラブ終了後、様々な雑務をするので、どんなにして18時より遅くなる。また、教頭と教務主任は、毎朝7時40分から打ち合わせをすることになっている。彼らにとっては勤務時間を超過しているが、嫌とかいう話はきたことがない。一生懸命仕事を頑張ってくれている。だから、その分、夏休み等は年休を取りやすい状況をつくりたいと考えている。通常の勤務については、今、説明したとおりになっている。教師は子どものためになると一生懸命仕事を行うので、少しぐらい超過勤務時間になってもあまり嫌な顔をしないのだと思う。

G 委員：「1クラスだと生徒が不登校生になった場合には・・・」というお話がありましたが、校長先生が以前おられた中学校（多クラス）でも、不登校生はいるのではないか。それでも、やっぱりクラスが多い方が不登校は解決しやすいか。

学校長：不登校生にも色々な原因があると思うが、どうしてもうまくいかない人間関係、膠着した人間関係の場合、どこかで変えてやりたいと思う。そんなとき、やはりクラス替えができないと難しい面も出てくる。

G 委員：少人数だと上下関係も決まっているし、人間関係も固定化しているとは感じるが、だからといって、大きい学校では不登校生がいないのかとなると、そうではない。その論理だけでは通用しないと思うが。校長先生の言っている意味はよく分かるが。

A 委員：「上富田町と合併すれば」という話の中に、合併すると小学校・中学校の適正規模にする選択肢が広がるのではという話があった。どこで合併するかは別として、旧の町や村を越えて学校統合することについて抵抗はないのか。先生自身の考え、また、地域の方々の意見はどうか。

学校長：正直分からない。来てほしいなというだけで、地域の人が望んでいるかは分からない。

A 委員：100人程度の学校規模だが、部活動についてどんなクラブがあるのか。

学校長：野球・柔道・テニス・女子バレー・陸上がある。

A 委員：この規模で、部活の適正な種類や数はどれぐらいか。また、他の学校との合同部活動は考えているのか。

学校長：まず、柔道に関しては、中辺路中学校と合同部活動をしている。中辺路中学校から3名の生徒が参加して、合計6人で行っている。ただ、中体連の規約の中に、個人種目で参加できる種目については、合同チームを組むことができない決まりになっているため、柔道は個人戦のみということになっている。部員数からするとクラブとして成立するのは難しいし、学校としても体制上、クラブを維持するのが難しい。しかし、地域や保護者の考えもあり、なかなかクラブを廃止することができない。また、本年度は入学生が28名で、そのうち男子が5名、女子が23名になっている。男子が5名しかいない状況で、柔道部と野球部が部員の争奪になっている。生徒数、クラブ員数が減少したからと言って、学校の都合でクラブを閉鎖することが大変難しい。どこの中学校も抱えている課題であると思う。

A 委員：この地域では、地域のスポーツ活動というのはないのか。

学校長：小学校を中心にしたクラブはあるが中学校が中心になった活動はあまりない。種目としては、空手やジャズダンス、水泳など、プライベートで行っているものはある。